

薬剤耐性菌を増やさないために

不必要な時に抗菌薬をのまない

抗菌薬はかぜを治す万能薬ではありません。
かぜやインフルエンザの原因となるウイルスに、
抗菌薬はそもそも効果がありません。
必要のない抗菌薬を求めないようにしましょう。
わからないことは、お医者さんや薬剤師さんに聞きましょう。

抗菌薬を処方されたらきちんとのみましょう

お医者さんはあなたの体に合わせた抗菌薬を処方しています。
処方された抗菌薬は、お医者さんの指示どおりにのみましょう。
とっておいて、別の機会にのんではいけません。
また、他の人の抗菌薬をもらったり、あげたりしてはいけません。

感染症を防ぎましょう ◆日頃からの体調管理と予防が大切です

正しい手洗い

- ◆ 石けんと水でよく洗いましょう
アルコール性の手指消毒剤も有効です

咳エチケット

- ◆ 咳やくしゃみのしづきがとばないようにマスクをきちんとつけましょう
マスクがない時はハンカチや袖の内側で口や鼻を覆いましょう

ワクチン接種

- ◆ 感染症には、ワクチンで予防できるものがあります

薬剤耐性（AMR）とは

感染症の原因となる細菌に
抗菌薬・抗生物質が効かなくなることです
「かぜ」の原因は「ウイルス」です
抗菌薬は「かぜ」の時にのんでも効果はありません
自己判断でのんだり医師の処方を守らないと
治らないばかりか副作用が出たり
「薬剤耐性菌」が生じて
感染症の治療や予防の
妨げになります

／ 知っていますか？ /
薬剤耐性

— 未来に使える抗菌薬を残すことが、今の私たちに課せられています —

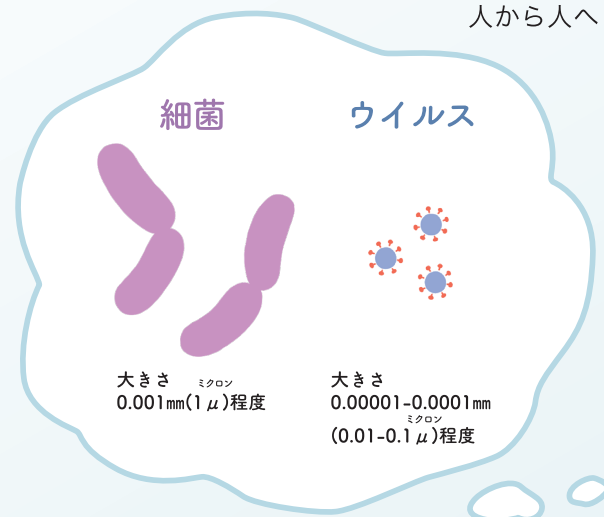


ウイルスに 抗菌薬は効きません

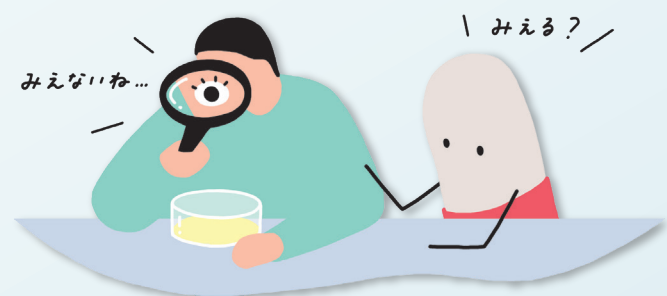
細菌とウイルスはどこが違うの？

感染症という病気の原因のなかに、細菌とウイルスがあります。
どちらも通常では目に見えないほど小さな生物ですが、
大きさ、体のつくり、増え方がまったく異なります。

細菌やウイルスに触れたり、それらを含んだしぶきを吸い込むことにより、
人から人へと広がりますが、感染しても必ず病気を起こすわけではありません。



細菌	ウイルス
自分の仕組みの中で分裂して増える —— 細菌による病気 —— 肺炎、中耳炎、膀胱炎など	他の生物の細胞を利用して増える —— ウイルスによる病気 —— かぜ(感冒)、インフルエンザ、風疹など

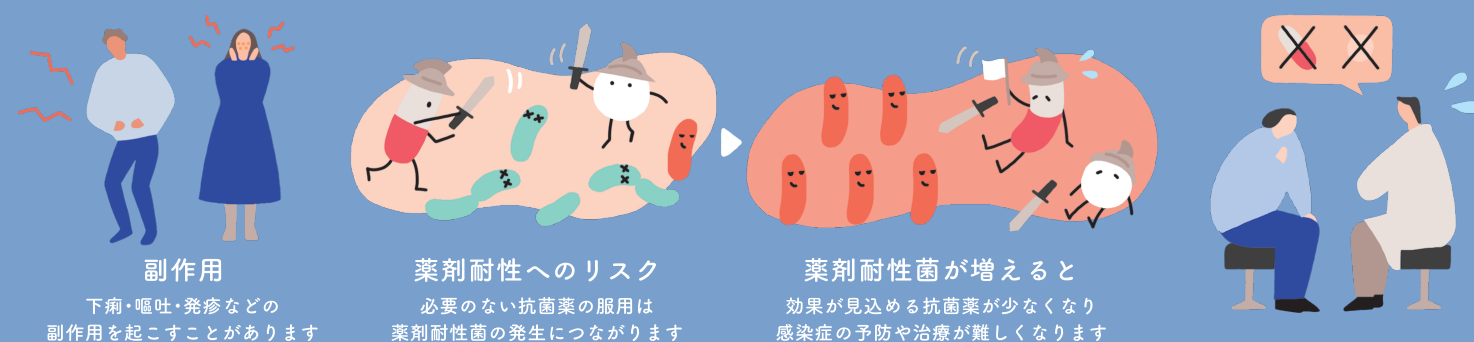


「抗**菌**薬」は「細**菌**」に対抗するために作られた薬です かぜの原因はウイルスです！ 抗菌薬は効きません

「かぜをひいたから医者さんで抗菌薬(抗生物質)をもらって早く治そう……」
そんなふうに思ったことはありませんか。
かぜやインフルエンザの原因はほとんどがウイルスです。
抗菌薬は細菌に効果がある薬なので、ウイルスが原因となるかぜにはまったく効果がありません。
かぜのときに抗菌薬をのんでよくなってきたなと感じたなら、それは抗菌薬の効果ではなく、
あなた自身の免疫でウイルスをやっつけたからかもしれません。

抗菌薬を正しくのまないと… 副作用が出たり、薬剤耐性菌が増える原因になります

薬剤耐性菌が増えると、本当に必要な時に抗菌薬の効果が得られなくなります。そうすると、感染症の治療や手術時の
感染予防が難しくなるだけでなく、臓器移植、抗がん剤治療など、さまざまな医療が困難となりかねません。

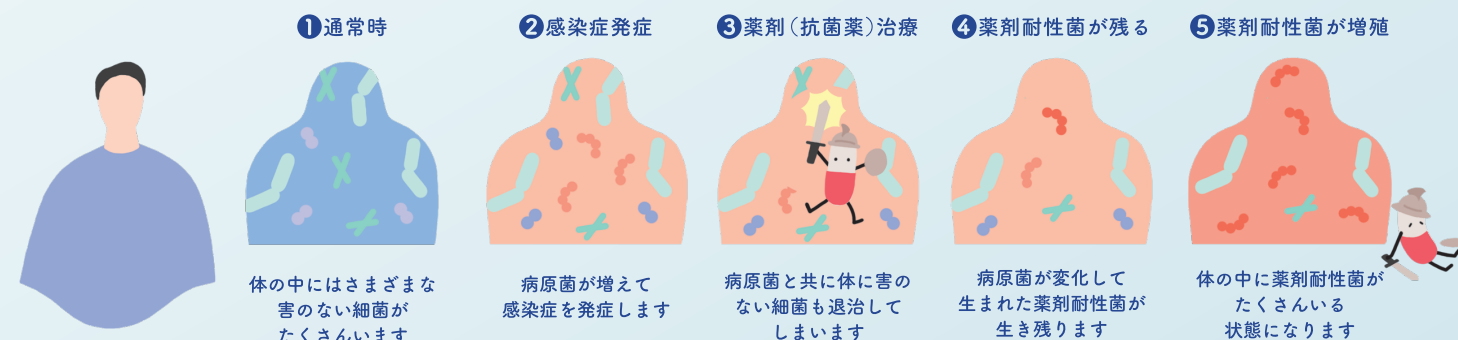


薬剤耐性菌とは？

「薬剤耐性菌」とは、抗菌薬が効かない、もしくは効きにくなるなど、抗菌薬に耐性を持った細菌のことを指します。
私たちの皮膚の表面や腸などの体の中では、無数の細菌(常在菌)が、互いにバランスを保ち健康環境を守っています。
体の中に入った細菌(病原菌)が病気を引き起こした時には、処方された抗菌薬をのんで治療しますが、
その際に、病原菌だけでなく、常在菌も一緒に排除してしまいます。
また抗菌薬から逃れるため、病原菌が耐性をもった薬剤耐性菌に変化することもあります。
周りに常在菌がいなくなり棲みやすくなった環境で、薬剤耐性菌が増えていくことになります。



▼ 薬剤耐性菌が増える仕組み ▼



薬剤耐性は世界規模で取り組んでいる課題です

薬剤耐性菌は世界中で問題となっています。このまま何の対策も講じなければ、
アジア・アフリカを中心に年間1,000万人が死亡するという状況が予測されています。
一方で近年、新しい抗菌薬はなかなか開発されなくなっています。
数十年後には、抗菌薬が効かない菌が世の中に蔓延してしまう恐れがあります。
世界保健機関(WHO)では、2015年に薬剤耐性に関する国際行動計画が採択され、
日本でも2016年に薬剤耐性アクションプランが策定され、薬剤耐性に対する取り組みが始まっています。

*<https://news.un.org/en/story/2019/04/1037471>
No Time to Wait: Securing the future from drug-resistant infections Report
to the Secretary-General of the United Nations April 2019



人だけの問題ではありません

抗菌薬は人や動物の医療以外にも、畜産、水産、農産物などあらゆる領域で使われています。人から人だけではなく、薬剤耐性を持つ遺伝子が食品や環境
などを介して、人へ伝播する可能性があることも指摘されています。これからは人の健康だけでなく、動物の健康や環境の保全にも気を配ることが大切です。それらに関わるさまざまな分野の人々が連携して課題解決を図っていくという考え方を「ワンヘルス」といいます。

